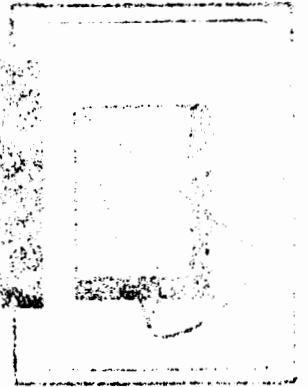
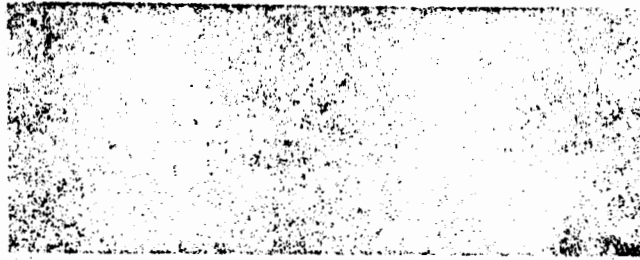
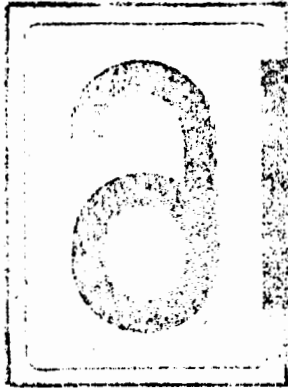


會 報



1959

舞 台 照 明 家 協 會



1999

— 目 次 —

モスクワ芸術座に思う……………

……… 篠木 佐夫 (1)

反射とレンズの話 (2) ……

……… 丸茂富治郎 (2)

調光装置のいろいろ (2) ……

……… 大庭 三郎 (6)

クイック・サケット・セレクトター

……… 大野 洋 (7)

△舞台照明・想うことV ……

第一回 水谷八重子…………… (4)

魔術的…………… 村山 知義 (4)

中共訪門のノートから……………

……… 梶 孝三 (8)

新しい劇場とホールの紹介…………… (10)

葡萄酒が生んだ舞台照明…………… (3)

事務局通信…………… (10)

ニュース…………… (12)

★ ★ ★ ★ ★

カット…………… 太田 弘道

モスクワ芸術座に思う

篠木佐夫



今年の劇界、特に新劇界に於ける話題は、モスクワ芸術座の来演である。そして、大きな波紋を投げ、多くの課題を残して行った。

わが照明界にも何かと新しい照明法、また創造方法のあり方を、単なる旅行者の土産話ではなく、それこそ、まのあたりでも具体的に示してくれるのを楽しみに待っていたのである。然し、いささか残念なことには、私の期待が余り大きかったせいか、浅慮ながらその照明の成果は見事な出来とは云えなかつたと思う。

四本の出し物の内で「どん底」「三人姉妹」「桜の園」の三本は、我が国でもしばしば上演されたものである。就中「どん底」は私が嘗て小山内先生の五周年追善公演に、その衣鉢を受継いだ水品春樹氏と小山内演出の再現に協力したことがあった。申すまでもなく小山内演出の「どん底」はモスクワ芸術座の移入と云われたほどであるから、今度来日の芸術座のそれは、とりわけ期待と興味をもっていた。ところが来演のそれは、大まかで、むしろ日本の古典歌舞伎のスタイルに近かつたと云つても過言ではない。この大ざっぱな照明は、最近のソヴェートの演劇の歴史的傾向によるものか、或ひは、日本の劇場の舞台機構がソ連のそれと大変異っているため、手の施しようがないというあきらめによる現実的な問題なのか、いづれにしろ、写実的で綿密な我が国の照明とは似ても似つかぬものであった。その杞憂を芸術座の二人の照明係を協会の座談会でたづねたところ、モスクワ芸術座ではもつとやうまくやっているとの返答をして次の事柄をつけ加えた。ソ連では、二十日間位の舞台稽古をしながら照明を創り上げていくこと、特別に照明器具工場があつて色々器具の研究改良をしていること、それも膨大な予算をもつて行えること、等々、夢のような話で我々を羨ましがらせた。

さて、先に述べたような芸術座の大まかな照明効果と日

本で行われているような照明が同じ脚本で余り大きなギャップがあることに對し、日本式は少しデリケートすぎるのではないかと云う程度の答しか出ていないことは聊か嘆かわしいことである。そればかりでなく、偶々ある演劇人の如きは、普通日本でなら決して、なおざりにしてはいられないようなことを、計画された効果と早合点しないまでも、肯定している事実である。それはあの名優たちのすばらしい演技のアンサンブルに魅了されて、その感動の大きかつた為と思うが、たしかに例えば、「どん底」の吊ランブを吹き消した後の、あの窓から差し込む一条の月光だけのほんとうに暗い照明は、強いニュアンスが瞬間非常に効果的であつたが、それは、あくまでも瞬間的なもので或る時間が経つと明暗の不自然なことや、間口の広い日本の劇場では、大変見にくいことになる。それに対する手段を講じられなければならぬと思つた。

モスクワから同道の二人の照明係の方には、舞台の見難い調光操作室で馴れない機械を操作する苦勞に同情しない訳にはいかぬ。矢張り日本式に記録表を作つてする便法を用いて欲しかった。モスクワ芸術座の操作室(調光室)は、フットライトの位置のプロンプターボックスの隣り所から、劇の進行状況を注視しながら、アジャストすることが出来るのであるから、実に結構な舞台機構と云わなければならぬ。このような劇場が欲しいではないか。

最後に、あの「かもめ」のマークのある緞織と袖幕であるが、或る時は黒く、また或る時は明るく舞台装置に融け込んで、俳優の演技を助けている。そして、その複雑な色と無駄な飾りのない落ちついた「かもめ」のマーク丈が歴史を物語るように話しかけていることは、芸術座の演劇への愛情とデリケートな神経の表われであることを物語っているように思われる。

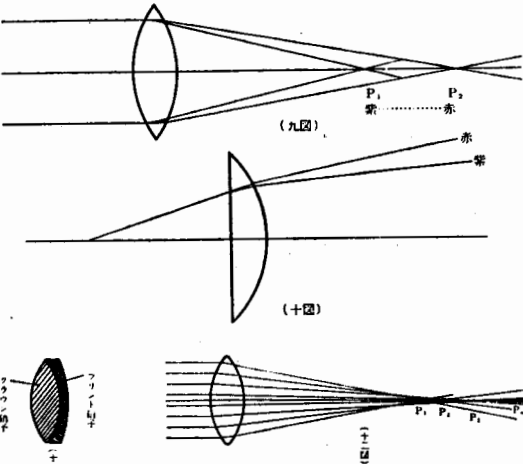
続 反射とレンズの話

丸茂富治郎

レンズの収差

太陽の光も電球やアークの光も虹の七色の光の混和している事は誰も知っている事であるが光は色によって屈折率が違っているからレンズを通して光を集めた場合に其各々の色によって焦点の位置が違ってくる。(九図)

スポットライトの電球光源の位置をレンズの焦点より遠く置いた場合はスポットした光の周辺が青くなりレンズの焦点より近づけた場合は周辺が赤くなるのは(九図、十図)に示された理由による。又電球のフィラメントの像が映った時色模様(縞)の見えるのも色収差の理によるものである。この色収差を取除く為に屈折率と分散率の違った硝子を並用したレンズが用いられる、即ち屈折率が小さく分散率の大きいクラウン硝子と屈折率が大きく分散率の小さいフリント硝子とを組合せて用いる、映写機の対物レンズにはクラウン硝子の凸レンズとフリント硝子の凹レンズを組合せたものが一般に用いられている。(十一図)

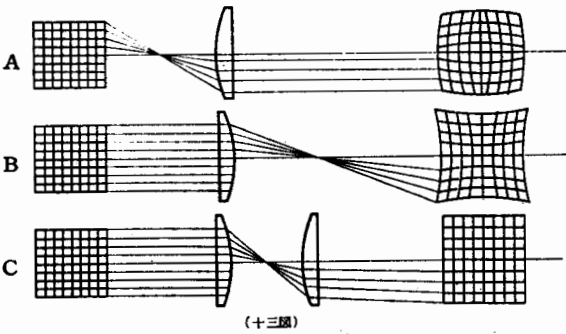


の周辺と光軸の近くとでは焦点を結び位置が違ふ(十二図)そして此の為に映像が曲ったり歪んだりする(十三図A B) エフェクト・プロジエクターの先玉が平凸レンズの凸面を向い合せて用いられているのは此現象を矯正する為である。(十三図C)

レンズの能率

レンズが光を吸収する度合はレンズの

仕上状態、硝子の厚さと品質及びレンズの形状によって違ふけれど光がレンズに入り又出て行く角度が法線と三〇度以内の場合は光の貫通する各面で大略五%の損失を生ずる、光が通過面に対して傾斜度合が増した場合は損失も著しく増して八五度では殆ど通過しない。硝子の内部での光の損失は硝子の質によって違い大體厚さ一種に就て約1%と見て良い。其の他フレネルレンズでは段状に同心



円の幾筋かの山が光を屈折してリング状に光を集める為に損失は尚増すものである。然しながらフレネルレンズは焦点の短い大形のレンズを作る事が出来るのでスポットライトの能率を著しく増し得るのでリング状の集光を除く色々の工夫が試みられて現在多く用いられている。

一般に段レンズと言われているものにプリズム板とフレネルレンズとがある、プリズム板は稜形プリズムを幾筋か同心円に配列したもので強い平行光線を得るのに適し、フレネルレンズは凸レンズを幾筋かの同心円で切り平板に押しつめたもので一般スポットライトに多く利用されている。(十四図、十五図)

二枚レンズの焦点距離

エフェクト、プロジエクターのオブジェクト・レンズは先に述べた様に平凸レンズ二枚を凸面を向い合せて使用する。此場合レンズの合成焦点距離は次の略式に依って計算される。

$$\frac{1}{f_{12}} = \frac{1}{f_1} + \frac{1}{f_2} \dots (1)$$

f_{12} は合成レンズの焦点距離

f_1 は各一枚のレンズの各々の焦点距離

離

D は二枚のレンズの間隔

通称八吋のオブジェクティブ・レンズ

(竹の子)は焦点距離二〇〇(八吋)

の平凸レンズ二枚を向い合せて長さ五〇

耗の筒に納めてあってレンズとレンズの間隔は約九耗である、従つて此数値を(1)式にあてはめて計算すると

$$f_2 = 102\% \text{ (415mm)} \text{ となる。}$$

此レンズを用いて五米の距離から二種の大きさの原画を映し出した時九八種の大さの像が映し出される事になる。

エフェクト・マシンを使った時其原画の区切られる窓口は一二五耗九であるから其映し出される像の広がりは大略(1)表の關係にある。

各種スポットライトの明るさの比較

各種一kwスポットライトの各種のレンズを使用した場合の一定の距離から一定の大きさに投光した時の明るさを比較して見るにスポットライトと投光面の距離を一五米とし投光の大きさを直径二米の広がりとした時垂直の投光面の照度は(1)表の如き差がある、此場合レンズの有効直径を九四%、反射の有効率を六〇%に限定した。

上記の如き条件で試験した場合は表の様な極端な明るさの相違が表われるが各スポットライトは其使用用途によつて特長を表わすもので例えば(3)は三〇米以上の長距離からも有効に使用され(1)は一五〜二〇米(2)は一〇〜一五米(5)は一〇米以内で使用するのに適し其他(1)(2)(3)(4)は照された人又は物の影がくつきりと表われ(5)

は照明の周辺がぼやけてやわらかい感じを出す等周知の如くである。以上わかりきった事はかり書きました

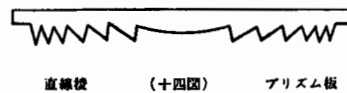
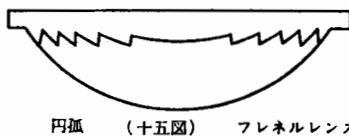
(1) 表

オブジェクトの呼称(時)	光の開き(度)	器具と幕との距離		
		4.5米	6米	15米
		映像の広がり(米)		
4	100	10	13	—
6	73	7	9	—
8	58	5	6.5	15
10	45	3.5	4.5	10
12	38	3	4	8.5

(2) 表

レンズの種類	レンズの大きさ	レンズの焦点距離	平均照度
			ルクタス
1 平凸レンズ	8 吋	12 吋	467
2 //	8 //	10 //	580
3 //	8 //	14 //	360
4 //	6 //	10 //	350
5 フレネルレンズ	8 //	43/4 //	1700
6 平凸レンズ、エリックス反射	8 //	10 //	1000

がレンズや反射の問題は数式をつかった理屈になりますので平凡を許して下さい。



葡萄酒が生んだ舞台照明V

舞台照明なるものが必要になったのは……十六世紀・劇場に屋根がつけられた時に始まった。

アール・ディヴィスの『舞台照明の傾向』と云う一文の中に、舞台に色彩照明が始めて試みられた事を左の様に記している。

八一五四五年、セリオールと云うイタリヤの画家であり建築家が、色彩照明の美的可能性に興味を持ち、そして彼は最初の実用的なスペクトルをオイル・ランプの前に置かれた赤ワイン・白ワイン・青ワインに依つて考え出したVと。続いてこの一文は次の様に続いている。

△当時、フット・ライトは例えシヨウが失敗に終わったとしても、飲む事が出来ることと云うことで実用的であった。Vと……照明家の飲みみの歴史のスタートと云うわけか。

ともあれ、△十七世紀・中頃、反射鏡付オイル・ランプと色付きランプのホヤの出現は、月光から地獄の火までを並べてみせることに成功した。Vとあるから、舞台照明も古酒の香りと共に短くない歴史を持っているわけである。(洋)



村山知義

△舞台照明・想うこと▽

第一回 水谷八重子

聴く人 小川昇
文責編集部

私が照明というものの驚異を始めて知ったのは、三十七年前にドイツに行った時である。その頃はスポットとサスペンションの威力が始めて認識された時期に当たったのだろう。どの劇を見ても、広々とした奥深い舞台に、明らかな光道を描いて、スポットやサスペンションが、空間をよきり、人物を不思議な陰影を形作りながら、クッキリと、または夢幻的に浮びあがらせていた。

第一次世界大戦がすんでまだ四年しかたらず、物資の不足に悩んでいた時なので、舞台装置を極力単純化しようという努力が働いていたことや、表現派や構成派の流行で、写実式舞台装置を排し、階段舞台、構成舞台風のものも多く、照明によって変化を与えることが要求されていたことや依るのだから。

舞台に高低さまざまなプラットホームを常置し、階段をあちこちに掛け、単色で塗りつぶし、人物を配置し、さまざまな場所の光源から、さまざまな角度で

△舞台照明が芝居の舞台でその雰囲気を作るという意味で、演技の助けになる場合とか、或いは反対に邪魔される場合などと言うこともあると思うのですが、そんなことに就いて一つ……▽

水谷 そうですね。俳優と云うものは、勿論自身自身で雰囲気を作ると云うことがあるわけだけど、それがその場の道具・小道具・衣裳・照明に依って助けられていると云うことは確かかなことだね。

△助ける側の照明がその逆の効果を与えてしまった、と云う様なことはありませんか……▽

水谷 そう、スポットの動き方なんかは時々気になることがあるわね。例えばスポットが当然当てなくてはならない登場人物を捜していたりすると、矢張り雰囲気は壊されるし、具合悪いわね。又、俳優の方でも一枚バックの遠

見の描き割りのすぐ前で芝居をしたりして大きな影坊主を出したりしてるのは注意しないといけないわけだけど……もっとも劇場の構造でも、東宝劇場の様な小屋などならそれ程難しくないことでも、明治座・演舞場みたいなフロントが近く、タッパの低い所では道具の飾り方の無理などにも原因があるんだらうけど……。

△水谷さんの場合は大抵大劇場に出演されるのですが、劇場に依って照明的に色々異った感じを受けられる様なことがあると思うのですが、それに関連して劇場の照明設備に就いて何か……▽

水谷 詳しくは解らないけど、この劇場は照明の設備が良くないらしいとか、器具が悪いな、と云う様なことは感じらわね。特に松竹関係の劇場の器具は良くない様な気がするけど……。いくら照明の人が一生懸命やっても器具が

悪くてどうしようもないと云うことがよくあるんじゃないかしら。

△設備の方ではどうですか▽

水谷 この間、源氏物語を演った時……舞台一方に高殿があり、一方に海があって、その高殿から「明石の君」が遠く去り行く舟を見送るのを見せながら幕にしたかったのだけど、どうやってもその高殿の上の「明石の君」に光を当てると後の海に影が出て到々芝居の居所を変えてしまったけど、こんなことは劇場を作る時から考えて防げないものかしら……。

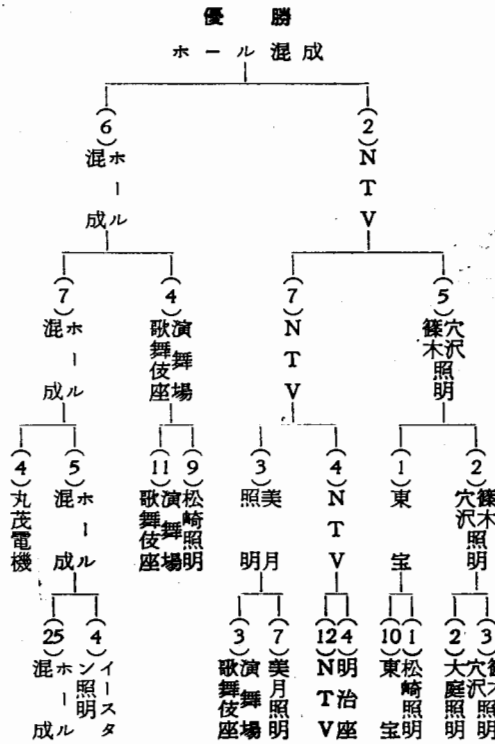
△そう、それにその問題は装置のデザインの時に充分考えて置かなければいけない問題ですね。

それでは、これは大変重要なことだと思っておりますが、毎日毎日の照明の操作と云うことに就いてはどうですか……▽

舞台照明家協会主催に依る 照明家対抗野球試合が行われた

去る3月18日から24日迄の一週間に亘り、協会主催、各劇場・研究所・T.V・賛助会員参加の対抗野球大会が行われた。着到時間としては到底不可能?の早朝8時からの連戦にもかかわらず多数参加者を得て、春のリクリエーションをエンジョイした。

試合の組合せ及び戦績は下記の通り。
()内の数字は得点。



協会が初めて企画した野球大会は时期的にやや早かった感じの3月中旬の、それも早朝8時試合開始とゆう肌寒い陽気の中で行われたが、それでも第一戦は神宮球場(軟式)の6面のグラウンド全部に協会の兼球?が飛び、各チームの好プレー・珍プレーの間に試合が進められた。結果は弱体を予想された混成チームがノンプロ級のトレード選手の活躍で優勝杯を手にしたが、勝負の結果に互らず、会後もより良い方法でこの様な催しは続けたいものである。

0.00から0.10までのコンマ以下の背番号をつけたユニフォームのチームがあったり、投手が居なくて他チームから借用に及んだり和やかな風景も見られたが、優勝チームのトレードの方法に就いては選手の登録制をもう少し厳重にして欲しいと云う苦情の声もあった事を附記して置こう。

ともあれ、総会にも見られない多数出席参加に依って行われた斯の様な試みは今後共、折にふれて催したいものである。

人物や群集を照射し、無限の空間の幻想の中にそれらを浮び上らせる手法に、私は全く臆を奪われ、その新しい美と力に陶醉したのであった。

しかし一方、写実的な舞台もなかったわけではなく、国立オペラ劇場でのオペラなどは、本当の樹々を植え、苔を置きなどして太陽光線と同じような効果を与える手の込んだ照明もしていた。

それ以来、ずっと舞台の仕事に携わっているが、照明というものは、相変らず私にとって魔術めいた驚異である。

★ ★ ★ ★ ★

水谷 ステージの板付の置く位置で近頃困ったことがあります。それは、そこは俳優が当然歩く所なのに板付が置いてあり、歩けば後の道具に影を見せなくてはならないと云う様な事、こんな事は矢張り気を付けて貰わないと困ることですね。

どのポジションでもそうだろうと思うのだけど、舞台で働く人は、誰でもとにかく芝居・舞台を知らなくては行けないと云うことぢやないかしら。

それから、近頃はスポットを扱う人でベテランと云う人が居なくなつたわ

ね。一番大切なことだと思っただけど……。

△他に何か、これからの照明に就いてこんなことがして欲しいと云う様なことがあったら一つ。どんなことでも結構です。V

水谷 こんな事は出来ないかしら。舞台の状況を照明が変える様に、衣裳やメイク・アップの変化を照明でパッと変えてしまおうと云う様なこと。出来たら面白いことだと思わう。

それから、これは舞台ではなく、T・Vの照明が早く確実な技術を確立して欲しいと云うことね。この間も水芸を見せながら、只正面からまともな照明をあてて、水芸に面白さを全然殺してしまつたことがあったけど、こんな事のない様、早くT・V独特の効果的な技術を確立して欲しいですね。

調
光
装
置
の
い
ろ
ろ
(2)

マグネティック ★★★★★★★★★★★★★★

アンプリファイア・ディンマー

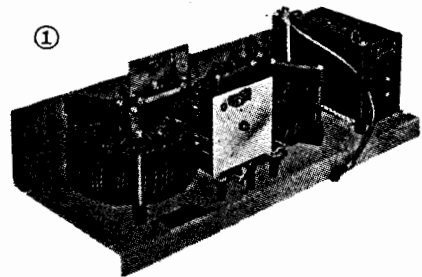
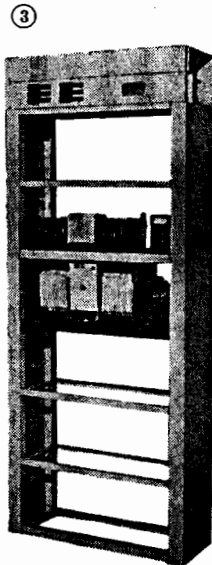
★★★★★★★★★★★★★★ 大庭三郎

これは今までの調光装置とは全然違った型で現れた調光器のニューフェイスである。詳細な配線図や機能状態がカタログだけで不明なため、目下詳しい事をニューヨークのメトロポリタン電気会社に問合せをしているが、ここではカタログで見たままの紹介をして置こう。

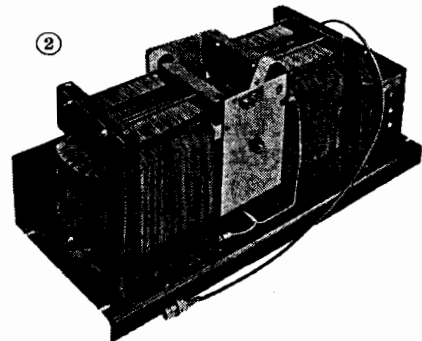
最近、今までの能率の悪い且つ設置面積を多くとった調光器は、このマグネティック・アンプリファイア・ディンマーに徐々にかわりつつあり、テレビジョンスタジオや舞台にも、この優秀な調光器が出現してからは、全く競争相手にはならないそうである。

構成部分は、整流器、抵抗器、誘導器、蓄電器からなり、機械的部分や真空管等ないため、機械的損失、真空管の寿命等に全く左右されない。且つこの調光器は、直流で操作され自力で飽和するし、最大の特徴は、負荷の変化の調節は自力平衡性で最大限の安定性がある事である。

主幹線は、操作配電盤(コントロール・デスク)に通じている、弱電回路によって操作されるので、遠隔操作は自由であり、操作配電盤は少ない面積で整頓される事になる。写真①は3キロワット ②は10キロワットの容量のもの ③はその設置されている所である。



3kW アンプリファイア・ディンマー



10kW アンプリファイア・ディンマー

DAVIS QUICK-CONNECT CIRCUIT SELECTOR.

★★★★★★★★★★ 大 野 洋

ク
イ
ツ
ク
・
サ
キ
ツ
ト
・
セ
レ
ク
タ
ー

オート或いはディンマーの選択方法も色々あるが、最近ではパッチ・コードに依る自由選択式が圧倒的に多い。

下に紹介するのは矢張り自由選択式であるが、比較的少数のオート・ディンマーで回路数も余り多くない場合に便利であろうと思われるデイヴィス社のサキット・セレクター・パネルである。

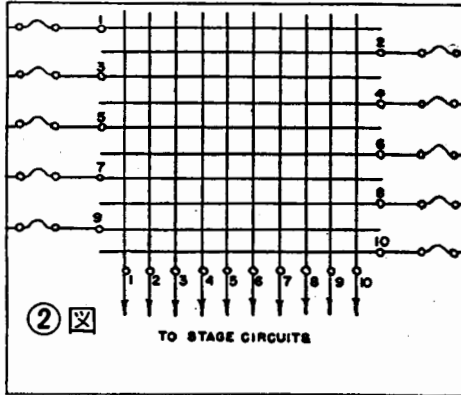
簡単に下図を説明すれば……

②図の格子状の左右両側、即ち③図の①がディンマーからのターミナルであり、これが③図③のスライダーに依り全部のディンマーのプッシュの上を滑って任意のディンマーと③図下側即ち③図の③のステージ回路に接続されるわけである。

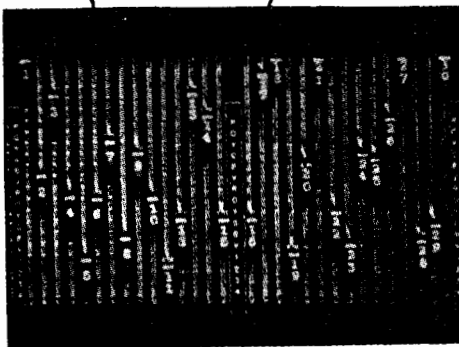
容量はディンマー・プッシュ側で50アンペア、スライダーの方（ステージ・回路）で20アンペアであり、ブレーカーに依って安全を保たれている。

又、上下に動くスライダーはプッシュの接点を傷めない様に工夫されており簡単に移動出来るので、パッチ・コードよりも手軽に接続出来、瞬間的な差し換えなどにも便利であろうと思われる。唯、想像出来る欠点は、余りにもロード側の取り口が多いので（1本のディン

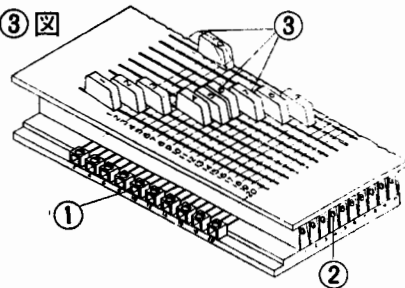
マーで全部のロードを取る事も出来るわけである）ともすればオーバー・ロードの心配が多いことであろう。



① 図



③ 図



中国訪問公演のノートから (3)

北京での印象 その三……

梶 孝 三

古い中国の都——数々の歴史を秘めている古い都——その古い都である北京の名所、旧跡を見物した私達は、その後、新しい中国の一面である大躍進中の、北京の演劇界に接することができた。それは、つまり、首都劇場であり、各劇団（人民芸術劇院、中央実験歌劇院、中国京劇院、中国歌舞団等）であり、演劇学校（戯劇学院、戯曲学院、舞踏学院等）であり、工人文化宮であった。そして私たちは、それらを見学し、座談会を持ち、くわしく説明をうけ、話し合える機会を得た。

これら、公立施設の歴史、制度、環境、教育方法などについては、一九五六年度の演劇雑誌「新劇」に千田是也氏が五回にわたって、くわしく、実にくわしく紹介をなされているので、私は、その重複をさけるため、ここでは、これらのことについてを、省略しなくてはならない。——それは、まったく千田氏の紹介通りであった。

ただ、千田氏が訪問された当時との変化は、当時建設中であつたという。戯劇

学院や戯曲学院の建物が、現在立派に出来上つていたことである。そして、その稽古場や、寄宿舎の完備は、私達をおどろかせるものであつたし、十分に羨まやせるものでもあつた。また、北京人民芸術劇院（新劇団）の専用劇場として、「首都劇場」という立派な近代設備の整つた劇場も出来上つていた。

話劇団、歌舞団、歌劇団、京劇団等の各劇団が、独立採算制をとり、しかも黒字の出せる見通しがついて、今後、国家補助を受ける必要がなくなつたというのも、最近の大きな変化であろう。スタニスラウスキー・システムの採り入れ方も、唱劇時代を過ぎ、再認識、再発見の時代に入つたようで、初期においては、古典劇演技否定の声さえも聞えた新劇人の間に、今は古典劇の重要さが唱えられ、本當の民族を表現する演劇を作り出すには、自国の古典劇を学ぶ必要性が大いにあつたと、説かれる傾向へまで来ていた。事実、演劇学校の身体訓練の方法の中には、中国古典劇の手法が多く採り入れられていたようである。

私が見学した稽古の一つで、次のようなものがあつた。それは演劇学校二年生の訓練で、音感を主題とした身体訓練のだが、教室の中に高さ七尺位の塀が出ていて、教師が手一つ強く叩くと、それを統声と想定した生徒が、逃げ場を失ない、その塀へよじ登る。そこで又、手が前より一層強く鳴る。塀の上へ登つていた生徒は、その音で、頭から真逆さまに転落する。そして、何度かこの訓練を繰返し、段々、自分でストーリーを想定し、役をきめ、目標を発見し、複雑な行為へと行動を進めて行き、最後に全員でその動作の、真実性、思想性、無駄な行為の有無などを討論する。そんな方法の稽古であつたが、これなどは、スタニスラウスキー・システムの訓練法でありながら、明らかに、中国独特の、とんぼの訓練を経た者でなければ出来ない方法のようでもあつた。実際、七尺もある塀の上から、ばつた、ばつたと転落する訓練を何十回となく繰返し、かすり疵ひとつおかないのであるから、それは、中々見事なものであつた。

その他、高学年生徒の実習や、専門劇団の稽古、公演等、いくつかの舞台を見学し、若い俳優の演技の中に、まだまだ未熟なものも感ぜられたが、それより、今後、ますます大きく飛躍するであろう可能性の方を強く見だし、私は、日本の演劇青年との環境の相違を、つくづく

と考えさせられたものである。——演劇学校は、演劇の玄人を、養成している。——身体訓練の、ただ一つの例を見ただけでも、私はこんな、あたりまえのことに感心した。……玄人とは素人にも出来ないこと、出来る人間をいう……。日本の演劇青年の中に、はたして何人、素人には出来ない力を持つている玄人がいるであろうか……。まして、マスコミなどの力で、一夜にして、素人を玄人に、また、玄人を素人に変えてしまふ日本の昨今である。

北京第一歩の夜に、私は、まず北京の街の、どの隅々にまでも、ごみ一つない美しさにおどろき、劇場に入つてから、そこに働く人達の、心からなる親切さと、舞台裏や、楽屋、稽古場のスペースの広さに感心した。そして、よく考えてみると、それらのことは、なんでもない、ごくあたりまえのことぞと気付いた。新しい中国は、ごくあたりまえのことを、どんどん押し進めて行ける国に成つたんだな、と思つた。その後、演劇学校、舞踊学校、京劇学校等に接し、その制度の中にも、教育方法の中にも、環境の中にも、私は、いろいろなあたりまえのことを見出した。だが、このあたりまえのことが出来る国に成る迄には、長い忍耐と努力の歴史が、彼等の歴史の中に流れていたのだ。そして今後、このあたりまえのこと自体が、何かにけりまら

ことや、それに抗ふ力などに出会うこと
もあろうが、やはり、忍耐と理解と努力
で、それらのことを解決し前進して行く
のであろう。

中国は、今年、大躍進の年だそうであ
る。そのスローガンの一つとして、浪費
反対というのがあった。そのスローガン
は、劇団運営の中にもあらはれ、公演回
数も殖し、舞台装置などにも、むだな出
費をさける傾向になっていた。どちらか
といえば、自然主義一点張りであったら
しい、新劇(話劇)の舞台装置も、今年
は大分簡素化され、しかも内容をよく表
しているものが多くなったようである。
また過去においては、稽古期間のむやみ
と長いものがあつたが、最近では、テー
ブル稽古二十時間以内、企画から舞台稽古
までの期間実動二百八十時間前後とい
う線が出ているそうである。とくに、テ
ブル稽古の期間が長すぎることは、理論
にばかりはしる傾向を生むものとして、
短縮されたそうである。

私達は、夜公演を持っているので、毎
夜七時から開演される、いろいろな舞台
を数多く見ることはできなかったが、そ
れでも舞台が休みの日に、首都劇場の活
劇、青春三歌、児童劇院の利巧な花嫁さ
ん、歌劇院の白毛女等を観劇することが
出来た。これらの舞台のうち、装置、衣
装、照明等、一番豪華で経費のかかつてい
たのは、児童劇であつて、テンポも早く、

大変に面白かつた。児童劇に一番経費を
かけその舞台を豪華にするというのでも今
の中国のやりかたらしく、興味のあるこ
とであり考えさせられることであつた。

北京人民芸術劇院の専用劇場、首都劇
場は、出来て間もない、多分、北京で一
番新しい劇場であつただろう。私は開演
数時間前、まだ裸のままの舞台を見せて
もらうことが出来た。客席千三百、間口
十二米、奥行二十米、高さ十米の余り大
きな劇場ではないが、こども、舞台は間
口より奥行の方がずっと広く、六間の廻
り舞台もついていた。こども天橋劇場と
照明の設備は大差なく、フロント・シー
リング、サスペンション・ブリッジ等のラ
イトが、一・五Kか二Kのスポットであ
ること、コンパトメントのローアー・ホ
リゾン・ライトのないこと、プロセニ
アムの間口が、上・下二米位づつ、芝居
の内容によつて移動出来る様になつてい
るため、タワー・スポットも、それにつ
れてレールの上を移動出来る様になつて
いたこと、等が日本の劇場と異なつてい
たことである。調光室は、天橋劇場で
は、舞台の下、つまり、日本のプロンプ
ター・ボックスの位置にあるのだが、こ
こでは上手二階であつた。調光器は五K
が二本だそうである。舞台の奥行が、間
口の約倍あるのだが、実際に使用するの
は、やはり舞台の中央位までなので、そ
の切り出しのうしろは、すべて照明器具

でうまつていた。日本のローアー・ホリ
ゾン・ライトのような、器具はなく、それ
らはすべて、ボックス・ライトで、五百
W、二K、二K等のパンチがごろごろと置
いてある。それは京劇団が日本へ持参し
たものと同じであるので、御存知の方も
多くあるだろう。それが、ローアー・ホリ
ゾン・ライトになり、雲になり、稲妻の
エフェクトになる。「青春之歌」の舞台
でも、雲だけが二十個位、置いてあり、
初めホリゾン・一っぱいに、屋の雲が出
ていて、段々夕焼けに変化し、そのうち明
るい雲が取れて、真赤な雲だけが残る。
そして雷雨があつて、稲妻が光り、雷雲
が光る。そんなエフェクトは、すべて、
このボックス・ライトで表はしていた。そ
れが中々リアルな効果を出すにはおど
ろいた。又この劇場には、クラウド・
マシーンもあつたが、この時には取りはず
してあつた。舞台装置の遠見や、立木等
が、すべて、魚網のような網の幕に布を
はりつけたものなので、その幾重にもか
さねられた幕が、沙幕を透した時の様な
やわらかさを、ホリゾンにあたえてい
るのも、遠近感を出す効果になつてい
た。これは、舞台転換を静かに、もし
て、スピーディーにはごぶため、ヨーロッ
プの方法を取り入れたもののようにだが、
やはり奥行の充分にある劇場でなければ、
出来ないやり方であらう。

青春之歌を観劇したあと、小さな対談
会を持ったが、その時、照明についてな
にか意見はないかと聞かれた。私は、劇
の内容で主人公の内面生活に大きな変化
が表はれる、あの風の時が、この劇の大
切な山場なのに、あまり見事な風のエフ
フェクトで、かえつて、劇の盛り上りが散
漫になりはしないだろうか、と質問して
みた。すると、「私たちは、ナチュラリ
ズムが、真のリアリズムを打ちこわすこ
とに対しては、充分気をつけているつも
りなのだが……」という返事であつた。
多分、大陸の風は、我々が想像してい
るものより、もっとものすごく、あの位の
効果では行き過ぎに感じないのかもしれ
ないし、舞台の内面性をこえるほど、観
客の神経にこたえないのかも知れない。
だが、日本人の私には、風のリアルさ
が、舞台の生活を忘れさせてしまうほど
に、強く感じられた。児童劇の場合のエ
フェクトは、それ以上のものであつた
が、これは、音楽、リズム感、俳優のテン
ポなどで、充分楽しめる効果であつた。
さて、私達は今、北京をはなれ、成都
に向かつて進んでいる。次の公演地は重
慶なのだ。戦後、まだ日本人は一人も入
つたことがない土地だそうだ。我々の見
学予定のスケッチャーも一杯つまつて
いる。今度は、中国の農村、工場、等、
労働者の実生活に接し、その収入や消費
の実態にまでふれてみようといふから楽し
みである。

とホールの紹介

舞台用 (30kW×6台)
客席用 (10kW×3台)
〃 (2kW×3台) 蛍光灯用

○配電盤 (3相4線式)
各メインスイッチはマグネットスイッチ使用
2場面プレセット式
負荷回路数 184回線
(以上 丸茂電機株式会社製)

☆ 八幡市市民会館ホール
・完成 昭和33年10月
・収容人員 約1750名
・照明設備

○フットライト 3色式 (60×120灯)
○ボーダーライト 3色式 No.1 } (150W×102灯)
No.2 }
No.3 }
No.4 (200W×51灯)
○水平ライト (300W×54灯)
○サスペンションスポットライト (1kW×18台)
○フロントサイドスポットライト (1kW×16台)
アークスポットライト (50A×2台)
○シーリングスポットライト (1kW×12台)
○センタースポットライト
アークスポットライト (50A×2台)
○調光器 (オートトランス使用) (20kW×6台)
○配電盤 負荷回路数 117回線
(以上 株式会社電照社製)

☆ 大阪新歌舞伎座
・完成 昭和33年11月
・収容人員 約1880名

○常任理事会 五月十二日 午前十一時
於文明堂
出席者 齋藤・篠原・篠木・沼田・原
穴沢・川崎・相馬・小川・大
野
欠席連絡 和田・阿部・相馬
一、理事長から協会運営上の状況報告
一、退会者確認
一、協会事業内容の検討
一、会費徴集状況報告
一、野球大会の準備委員決定

欠席連絡 大庭・秋山・和田・小林・
田中・今井

・舞台間口 (14間) 高さ (3.5間) 奥行 (8.5間)

・照明設備

○フットライト 4色式 (60W×100灯)
○花道フットライト 2色式 (60W×50灯)
○ボーダーライト 4色式 No.1 (200W×100灯)
No.2 (200W×92灯)
No.3 (200W×84灯)
No.4 }
No.5 } (200W×72灯)
No.6 }

○サスペンションライト
スポットライト (1kW×14台)
フラッドライト (1kW×12台)

○フロントサイドスポットライト
吊込スポットライト (1kW×18台)
スタンドスポットライト (1kW×8台)

○シーリングスポットライト
セルシンカラーチェンジャー式 (1kW×12台)
同上 ナジ (1.5kW×2台)

○バルコニススポットライト
セルシンカラーチェンジャー式 (1kW×12台)

○センタースポットライト
D.C. ピンアークスポットライト (50A×2台)
A..C. アークスポットライト (50A×4台)
ピンスポットライト (1.5kW×6台)
スポットライト (1.5kW×6台)
(以上 バグナル株式会社製)

○調光器 舞台用 オートトランス使用
(U型 20kW×8台) (U型 30kW×4台)

○配電盤 (3相4線式)
各メインスイッチマグネットスイッチ使用
2場面プレセット式
負荷回路数 200回線
(以上 丸茂電機株式会社製)

事務局通信

○理事会 二月十一日 午前十一時 築地サゾイ

出席者 小川・篠木・大庭・原・前田
沼田・田中・篠原・小林・齋藤
藤・今井・高橋・石川・二瓶
川崎・大野・吉本・穴沢・柴山・立木・根本



No. 6

昭和33年度の新しい劇場

全国的に主なものを挙げると、札幌市民会館ホール、上野市産業会館ホール、愛知文化会館ホール、大阪朝日会館フェスティバルホール、大阪新歌舞伎座、八幡市市民会館ホール等があるが、昨年2月焼失した東宝劇場の復旧工事などもある。このうち数館を拾って見ると

☆ 大阪朝日会館フェスティバルホール

- ・完成 昭和33年4月
- ・収容人員 約2960名
- ・舞台間口(16.2間) 高さ(約6間) 奥行(約9間)
- ・照明設備

- フットライト 4色式(60W×160灯)
- 花道フットライト 2色式(60W×45灯)
- ボーダーライト 4色式 No.1(200W×124灯)
No.2
No.3 { 150W×116灯
No.4 {
- 水平線ライト (500W×80灯)
- サスペンションライト
No.1 スポットライト (1kW×20台)
// (500W×10台)
フラッドライト (750W×8台)
No.2 スポットライト (1kW×22台)
// (500W×10台)
フラッドライト (750W×8台)
- ステージギャラリースポットライト (1kW×12台)
アークスポットライト (50A×2台)
- トーマンダースポットライト (1kW×16台)
- フロントサイドスポットライト (1kW×24台)
アークスポットライト (50A×8台)
- シーリングスポットライト
No.1—No.2 (1kW×40台) マグノカラー式
(1kW×8台) 同上 ナシ
(2kW×4台) //
- センタースポットライト (50A×8台)

- 調光器 (直流電動操作式) オートトランス使用
舞台用 (U型25kW×8台) (U型35kW×4台)
客席用 (U型15kW×4台)
- 配電盤 (3相4線式)
各メインスイッチはマグネットスイッチ使用
2場面プレセット式
負荷回路数 312回線
(以上 丸茂電機株式会社製)

☆ 愛知文化会館ホール(名古屋市)

- ・完成 昭和33年5月
- ・収容人員 約1700名
- ・舞台間口(12.8間) 高さ(5間) 奥行(6.5間)
- ・照明設備

- フットライト 4色式(60W×132灯)
- 花道フットライト 2色式(60W×34灯)
- ボーダーライト 4色式 No.1
No.2 { (150W×112灯)
No.3 {
No.4 (150W×96灯)
- 水平線ライト (300W×48灯)
- サスペンションスポットライト
No.1 (1kW×8台) (500W×16台)
No.1 (2kW×4台) (500W×20台)
- フロントサイドスポットライト (1kW×24台)
アークスポットライト (50A×4台)
- シーリングスポットライト
マグノカラー式 (1kW×20台)
同上 ナシ (1kW×4台)
- センタースポットライト
ピンアークスポットライト (50A×4台)
- 調光器 (直流電動操作式) オートトランス使用

美術家協会から織田・金井両氏出席。
一、美術家協会から提唱された脚本の早期脱稿の促進運動に照明家協会としてもその意向に賛成し、積極的にこの運動を推進するべく、この為の具体的方法その他を次回常任理事会にて検討することにする。

一、世界青年平和文化友好会実行委員会参加要請の報告——川崎

○常任理事会 五月十七日 午前十時半 於文明堂
出席者 穴沢・今井・岩崎・和田・原 篠木・小川・大野・相馬

一、脚本脱稿を早める運動を舞台のみに止どめずTV分野を含めて推進することを決議

一、TV中継料に関する件

一、谷パレエ団公演NHK中継の際に起きた特殊中継ケースの件——次号会報に詳細を報告——

一、総会の件 準備委員会を事務局にて代行する事に決定

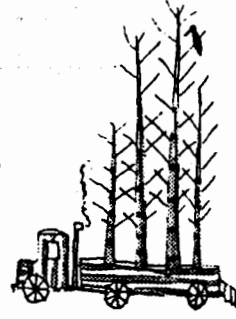
○事務局会議 五月廿一日午後三時 於小川研究所
出席者 相馬・原・田中・今井・岩崎 小川・小林

一、総会準備会

○事務局会議 五月廿五日 午前十一時 於小川研究所
出席者 篠木・原・穴沢・田中・岩崎 小川・小林

一、総会準備会

ニュース



我が国へ始めて、スポットライトその他照明器具を、ドイツより移入され、氏は照明プランもされたことが伝えられています。

葬儀は、六月八日午後一時より、六本木俳優座劇場に於て、「演劇葬」として行われました。当日は、演劇、オペラ、舞踊の各界より多数名士参列し盛大でした。当舞台照明家協会も生花を靈前に供えさせていただきます。

○岡倉士朗氏逝去

劇団民芸の演出家岡倉士朗氏は、二月廿二日午後八時、東京厚生年金病院にて永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

氏は築地小劇場時代より我が国新劇界に演出の仕事を経て来られ、最近では歌舞伎・新派・オペラ等の分野でも活躍せられ、その逝去は誠に惜しまれることです。

○土方与志氏逝去

築地小劇場の創立者であり、我が国新劇界は勿論、オペラ、舞踊界にも、数多くの仕事を残された、演出家土方与志氏は、代々木病院にて、六月四日午前五時、肺臓ガンのため永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

尚、氏は、築地小劇場設立の際には、

○野球大会開く

三月中旬、協会主催に依り神宮軟式球場に於て、軟式野球大会が開かれ、一週間の熱戦の結果、混成チームが優勝した。そして之を期に混成チーム・メンバーの日比谷公会堂に新しく独立チームが誕生し好敵手を持つている。

○文京公会堂の照明主任は会報第五号の

「聴交室」欄にも掲載されたが、去る四月開場と共に、遠山静雄氏の紹介で佐藤乙彦君が就任した。

☆事務局から総会のお知らせ

左記に依り舞台照明家協会第四回総会を開きます。
万障お繰り合せの上御出席下さい。
時 六月十七日(水)午後九時
所 朝日倶楽部(銀座東三ノ四)
尚閉会後例年通り懇親会を開きます

▽会員消息

○新入会

中央区日本橋浜町二ノ二

○明治座

世田谷区玉川仲町二ノ四

○住所変更

八 芸術座

○住所変更

天谷英夫 中野区上高田二ノ二八〇

○住所変更

春日正彦 板橋区大山町十一

○住所変更

相原誠一郎 板橋区下赤塚町一四二三

○住所、所属変更

藤井 修 大田区御園一ノ二二

○退会

東宝舞台から新宿松竹センター・文化演芸場照明部へ。

○訂正

笹川健一 一月三十日母堂逝去

○訂正

会報第五号の賛助会員イースタン・照明社の電話番号は(36)〇二〇六(368)二四

○訂正

〇二。会員住所録の二瓶正吉住所の内番地の二一八は二一八一の誤り。

○電話開通

滝尾輝雄 (38)九〇三九

聴交室



☆榎木照明研究所ではこの度光芸クラブをも含めて、新しく東京舞台照明として発足いたしました。

事務所は

東京都港区芝田村町三ノ二三

電話(59)一〇五九

○出版局からお願い

☆会員の投稿を求めます。

☆会員諸氏のニュースをお知らせ下さい。

☆劇場・ホール関係会員は所属劇場・ホールのスケジュール・ニュースをお知らせ下さい。

☆事務局・出版局からお願い

新しい会員名簿を作成する為、住所変更その他がありましたら至急事務局迄お知らせ下さい。

小川照明研究所内事務局

(27)八二一九

編集部連名

大庭三郎(出版局長)

滝尾輝雄 梶 孝三

立木 定弘 川崎ひろし

根本 好章 大野 洋

賛助会員

丸茂電機株式会社

千代田区神田須田町一の二四
電(25)〇三三一

日比谷サービスステーション

千代田区内幸町日比谷公会館内
電(59)四〇〇〇

松村電機製作所

文京区根津富永町二二
電(82)六一六一

近藤電機工業株式会社

世田谷区経堂一の二三
電(42)二〇九六・九六一九

イースタン照明社

新宿区戸塚町三の七四
電(36)〇二〇六(368)二四〇二

電照社

渋谷区伊達町六三
電(44)六七八二・九〇四二

竜電社

港区芝新橋四の六
電(43)七九〇八・六二五九・六二四三

ハクナル株式会社

港区芝田村町三の七
電(59)七六五一

編集後記

照明家と云う職業は、こうも忙しく暇のないものなのかと、因果を感じる程毎号の発行の遅れに頭を悩ませています。又、その内容も何か中途半端なものを感じ、これではいけないと毎号意を新にしている積りなのですが、何とも進歩のないまま、又遅れた第六号を会員諸氏に送る次第とはなりました。会員諸氏の強い批判を望みます。

—編集子—

会報 第六号

舞台照明家協会

昭和三十三年八月二十五日発行

発行所 舞台照明家協会

中央区築地四の二
電話64八五二八
(日本演劇協会内)

編輯人 大庭三郎
発行人 小川昇
印刷所 大洋印刷株式会社
港区芝浜町三ノ五

電話43一七四三六九
五三二六七

(非売品)